

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	タムスわんぱく保育園瑞江
施設所在地	東京都江戸川区瑞江2-22-12

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音（おと）

<テーマの設定理由>

今迄、感触遊びに趣をおいて保育することが多かった為、様々な角度から保育が展開できるテーマ設定として『音』を選んだ。0歳児～2歳児クラスの『個』にとって、暮らしの中での音環境はとても大切であると感じている。その中で自然の中から感じ取る『音』について『子どもも大人もわくわくする探求』を追求していこうとテーマ設定をした。音には無音・自然音・季節の音・生活の音・声・歌う音・音色（楽器の数々）、手作り楽器等。まずは『問い』を立て、『多くの音を通じて、感じることを大切に。』を職員間で共有していく。

2. 活動スケジュール

7月より準備開始。

【0歳児クラス】

8月：夏 氷水遊び、9月：ウォーターベット、風船ベット遊び、10月：風遊び、11月：落ち葉遊び、12月入れ物遊び、1月：カラーセロファン・袋遊び、2月：袋遊び3月：段ボールお絵描き

【1歳児】

8月：手作り太鼓遊び、9月：手作りカスタネット遊び、10月：手作りマラカス遊び、11月：戸外活動（自然物とのふれあいを通して楽器作って遊ぶ）、12月：本物の楽器に触れる、1月：楽器遊び（楽器の音を鳴らしてみよう）、2月：素材遊び（様々な素材を楽しむ）、3月：楽器遊び（自分で作った楽器で音を楽しむ）

【2歳児】

8月：水遊び、9月：雨の日の園庭遊び、10月：周辺散歩、11月：自然物で楽器作り、12月：本物の楽器に触れる、1月：楽器に合わせて楽器を鳴らす、2月：糸電話、3月：本物の楽器演奏を聴いてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

氷、ボウル、筒状の容器、ジップロック、金タライ、金バケツ、手作りウォーターベット、風船ベット、うちわ、スズランテープカーテンづくり、落ち葉、どんぐり、ジップロック、圧縮袋、タライ、缶箱、紙箱、ミルク缶、チェーン、ビニール袋、カラーセロハン、養生テープ、ビニールテープ、カラーポリ袋、風船、段ボール、牛乳パック、ペットボトルキャップ、R1容器、鈴、ビーズ、小豆、お米、ぼんぼん、ボール、塩、水、お菓子の箱、ペットボトル、ジップロック袋、楽器（タンバリン、ハンドベル、ウッドブロック、ギロ、トライアングル、マラカス、ピアノ、ギター、ウクレレ等）、卵のパック、段ボール、梱包材、新聞紙、輪ゴム、模造紙、クレヨン、録音機械、等

基本は暮らしからの『音』を大切に、様々な『音の世界』を追求していく。素材は主に手作り品も多く取り入れ、室内・園庭の環境づくりに取り組んだ。後半には本物の楽器の『音』に触れる機会を多く設定していった。その中で、日頃お世話になっている業者の方にも普段触れる機会のない『楽器』を沢山ご準備いただき、環境づくりにご協力いただいた。楽器を通して『個』の心地よい『音』を見つける姿も見られた。2才児クラスは録音機を使用して様々な『音』探しを実践した。お別れ遠足では大好きな電車に皆で乗車し出かけ、新たな『音』の追及を実践した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

暮らしの『音』、無音、自然から感じる『音』、素材から感じる『音』など様々な『音』の実践に取り組んだ。『音』を通して、子どもから表出する『表現』も様々あり、『個』のことばの表現のおもしろさも感じた。また、業者の方の協力により、沢山の楽器に触れる機会を設け、感じる『ところ』を大切に紡いでいった。園外活動では、録音機を準備して、『個』が『わくわくを感じた音』を録音して皆で聴く機会を設けた。自分の声やお友だちの声も楽しむ。よく耳を澄ませて聴くと、『何の音だろう?』と遠くから聴こえる音を集中して聴き入る姿もあった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

0歳児クラスは『個』がどのように『音』を感じ取っているかは難しいこともあったが、表情や感覚から『何かを感じている姿』を捉えることができた。きっと身体のどこかで様々な『音』を吸収して感じているのかと私たちは考えた。実践の回数を重ねていく中で、様々な『音』に耳を傾ける感覚を大人も捉えることが出来てきた。季節の自然物、生活音などからは心地よい音、逆に不思議な音、雑音、にぎわいのある音からの無音（静けさ）など大人が『個』の表情を読み取り、言葉にして『何か聴こえるね。』『いい音だね。』など表現を繰り返していった。また、『音』を録音して皆で聴くと面白い表現も飛び出した。感じ方・表現の仕方は皆違って良く、正解がないことも感じた。また、そういう場面で『わくわく』も感じることができた。楽器に触れる機会では『～の音に似ている。』など知っている『音』と重ねて表現する『個』も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年間を通して継続的に活動に取り組むことで、個々の気づきも回を重ねるごとに増してきた。不思議さを追求する保育の楽しさも感じる事が出来た。今までとは違った視点を『保育』に取り入れることで、園児にとっても『新たな発見』を多く感じる機会に繋がった。また、必要以上に声をかけすぎないように、『個』の気づきを大切に組み込んでいった。『音』は空気や気温など環境によっても変化することに体験を通して気付くことができた。引き続き、職員間で知識も増やし、園児のわくわくする探求心をともに楽しんでいきたい。